

2015 年 12 月 8 日

McLaren 675LT Spider

マシンとの一体感と爽快感をもたらすドライビングを追求したモデル

- 最高出力 675PS で最大トルク 700Nm、画期的なパフォーマンスを実現、リトラクタブル・ルーフによって、さらに爽快感をもたらすドライビングを提供
- 100kg の重量削減により乾燥重量は 1,270kg となり、パワー・ウェイト・レシオは 532PS/t
- お客様の熱烈な要望に応え、675LT のバッジを冠した第 2 弾モデルが誕生
- エクスクルージブなカラーリングである‘ソーリス’と 20 スポークの超軽量鍛造アロイホイールを初採用
- 車両本体価格は 285,450 ポンド(英国販売価格)、マクラーレン・モデルの中でも最もフォーカスされ、最も速く、よりエキサイティングなオープントップ・モデル、全世界で 500 台の限定生産
- McLaren 675LT Spider の詳細を下記のウェブサイトにて公開：
<https://www.youtube.com/watch?v=IGGJrVY5rlc&feature=youtu.be>

2015 年 12 月 3 日 英国発 名門 Formula 1™ チーム、マクラーレンのグループ企業であるスポーツカーメーカー、マクラーレン・オートモーティブ(本社: 英国サリー州、エグゼクティブ・チェアマン: ロン・デニス) は、全世界で 500 台限定モデル McLaren 675LT Spider の詳細について発表しました。



マクラーレン・オートモーティブは、アイコン的な‘ロングテール’の歴史上で、最新モデルとなる McLaren 675LT Spider を公開しました。全世界でわずか 500 台の限定生産であり、LT バッジを冠した第 2 弾モデルとなります。およそ 20 年ぶりにロングテールという名を復活させた 675LT Coupé の発表後 1 年以内の最新モデルの登場は、お客様の熱烈な要望にお応えした形となりました。徹底した軽量化、最適化されたエアロダイナミクス、高められたパワー、そしてサーキット志向のダイナミクスにフォーカスした 675LT Coupé は、最初のデリバリー開始前に、すでに完売しました。この特性を兼ね備え、マクラーレン・モデルの中でも最もフォーカスされ、最も速く、よりエキサイティングなオープントップ・モデルが登場します。

675LT Spider の車両本体価格は、285,450 ポンド(英国販売価格)となります。マクラーレン・オートモーティブにとって記念すべき年となった 2015 年に投入される、5 番目のニューモデルです。この最新モデルは、McLaren P1™ GTR、570S Coupé、540C Coupé ならびにフィックスド・トップの 675LT Coupé とともに、新たにラインナップに名を連ね、スーパーシリーズのレンジに加わります。

675LT Spider の内部には Coupé モデルで大幅に改良された、3.8 リッターV8 ツインターボ・エンジンのパワートレインが搭載され、LT(または‘ロングテール’)のバッジに相応しいパフォーマンスが実現しています。最高出力と最大トルクは変更がなく、それぞれ 675PS(666bhp)/7,100rpm、700Nm(516lb ft)/5,000-6,500rpm となっています。また、パワートレインの変更に伴い、コンポーネントの 50%以上が取り替えられ、出力、トルク、そしてドライバビリティを最適化しました。また、より高効率の新型ターボ、シリンダー・ヘッドとエグゾースト・マニホールドの精緻なデザイン変更、新型カムシャフトと軽量のコネクティング・ロッド、そしてよりハイパフォーマンスな燃料ポンプと燃料供給システムなどがあります。

0-100 km/h 加速はわずか 2.9 秒。0-200 km/h 加速は 8.1 秒となり、エアロダイナミクスの最適化がさらに進み、重量が軽い Coupé と比較しても、たった 0.2 秒の差となっています。ファースト・ギアでのトルク制御によってトルクが 600Nm(443lb ft)にまで高められるため、加速の最大化とホイール・スリップの最小化が可能となります。最高速度は、326km/h に達します。このような優れたパフォーマンスにもかかわらず、675LT Spider の燃料消費は EU 複合サイクルで 24.1 mpg となっており、CO2 排出量は Coupé と同様で 275g/km となっています。3 ピース型リトラクタブル・ハードトップは、30km/h 以下の走行時でも開くことができるため、オープンエアでの爽快感をよりダイナミックに感じることが可能です。

1990 年代後半の McLaren F1 によってその名を知られるようになった‘ロングテール’の精神を引き継ぐ 675LT Spider は、軽量化とエアロダイナミクスの最適化にフォーカスして開発されました。ボディ構造部分でのカーボン・ファイバーの大幅な採用が、このモデルの特徴となっています。675LT Coupé と同様、大型のスプリッターとエンドプレートが装着したフロントバンパー、フロント・アンダーボディ、サイド・スカート、サイド・インテーク、サイド・エアインテーク下部、リアのボディサイド下部、リア・フェンダー、リア・デッキ、リア・バンパー、ディフューザー、そして‘ロングテール’エアブレイキがすべて、カーボン・ファイバー製となっています。軽量のコンポーネントもパワートレインとシャシーの全体にわたって採用されており、そのすべてがわずか 1,270kg と乾燥重量の実現に貢献しています。これにより、すでに軽量化が達成されていた 650S Spider との比較でも 100kg もの重量削減がなされ、パワー・ウェイト・レシオが 532PS/トンとなっています。カーボン・ファイバー製モノセルシャシーの強度があるため、ルーフを取り外しても強度を上げる必要がなく、結果的に重量もほとんど増えないため、675LT Spider の重量は Coupé と比較してわずか 40kg に留まっています。重量の増加分はすべてリトラクタブル・ルーフ・システムによるものとなっています。

675LT のドラマチックなスタイリングと利便性の高さは、Spider モデルと共通しており、フロントウイングのエンドプレートをサイドに配した長いフロントスプリッターがエアフローを強力にし、ダウンフォースのレベルが大幅に向上します。また、精緻な構造のカーボン・ファイバー製ドアシルがボディ下部に伸び、リアホイールの小さなエアインテークへと続いています。その上部には、エアインテークが両サイドではっきり見えるように装着されており、インテークを通じて冷却されたきれいな空気をサイドのラジエーターに供給し、ラジエーターがさらに空気を冷却します。リトラクタブル・ハードトップは色分けされたトノカバーの下部に収納され、その状態でも、軽量のポリカーボネート製エンジン・カバーを通じてエンジンを確認することができます。リアでは、ツインの軽量チタニウム製クロスオーバー・エグゾーストがアクティブな‘ロングテール’エアブレイキの下部まで伸びています。この‘ロングテール’

エアブレーキは、スーパーシリーズの他モデルよりも 50%大きくなっています。流れるようなデザインのリアウイングと組み合わせたために、サイズは拡大しましたが、カーボン・ファイバー構造により、重量が実際には軽減されています。また、リア・デッキのサイドやリアウイング下に露出したボディ部分はエンジンを冷却させる効果を持ち、外に張り出したリア・バンパーのルーバーは圧カレレベルを最適化します。

675LT Spider のサスペンションは Coupé と同じ構造とジオメトリーを備えています。フロントエンドには新たな軽量スプリングを採用し、トレッドは 20mm 拡幅されています。スーパーシリーズでもっともサーキット志向が強いキャラクターであることから、スプリングレートはフロントで 27%、リアは 63%強化された結果として、リアのバランスがさらに向上し、ダウンフォースは 650S Spider よりも 40%増加されています。

675LT Spider には 10 スポーク超軽量鍛造アロイ・ホイール(フロント 19 インチ/リア 20 インチ)に PIRELLI と共同開発した 675LT 専用の P Zero™ Trofeo R が標準で装着されており、この組み合わせはマクラーレン・モデルの中で最軽量となっています。さらに 2 種類の超軽量ホイールがオプションとして用意されており、20 スポークのデザインではリキッドメタル・コーティング、もしくはダイヤモンドカットのフィニッシュからお選びいただけます。またもう一方の 5 スポーク超軽量ホイールは、Coupé で初めて採用されたデザインです。

軽量化というテーマはインテリアにも及んでおり、Alcantara®とカーボン・ファイバーを幅広く採用しています。McLaren P1™と同じカーボン・ファイバー製軽量レーシング・シートは 2 脚あわせて 15kg の軽量化に貢献、さらに '675LT' とエンボス加工されたレザーがサポート性とグリップ性のレベルを高めています。ヒーターおよび換気の操作は McLaren P1™や 675LT Coupé と同じく、中央にレイアウトされたタッチスクリーンで行います。このタッチスクリーンは Meridian の 4 スピーカー・オーディオ・システムのコントロールにも用いられます。なお、エアコンディショニング・ユニットは取り外され 16kg の軽量化に貢献していますが、無償オプションとして装着可能です。

675LT で初めて採用された 'By McLaren' のインテリア・テーマが、Spider モデルでも利用可能となります。これまでのパターンが 675LT Spider でも採用されているほか、コントラストの効いたエクスクルーシブなキセノン・イエローのステッチも追加しました。同様に、675LT のエクステリアのカラーリングも Spider モデルで使用可能となっており、新しいシリカ・ホワイトやデルタ・レッド、ネーピア・グリーン、シケインでのフィニッシュが可能です。さらに、新たに開発されたディープなゴールドカラーであるソーリスも用意されています。ソーリスとはラテン語で太陽を意味しており、オープントップの 675LT Spider でのみのビスポーク・カラーとなっています。

Club Sport Professional Pack ではさらなる改良が施され、カーボン・ファイバーとステルスがよりはっきりと目立つフィニッシュとなっています。ボディ・カラーはチタニウム・シルバー、ストーム・グレー、オニキス・ブラック、シケインという 4 つのカラーリングが用意されており、超軽量のホイールはステルスフィニッシュとなっています。また、フロントウイング・エンドプレート、ロワーサイド・エアインテーク、リア・バンパーのセンターとともに、サイド・インテーク、ホイールアーチとウイング・ミラー、ならびに 'ロングテール' エアブレーキが、サテン・カーボン・ファイバーフィニッシュとなっています。さらにマクラーレン・オレンジがエクステリアとインテリアのディテール、ならびにブレーキ・キャリパーに採用されており、エンボス加工のレザーとステッチもすべて、ブルース・マクラーレンが Formula 1™と Can-Am レースで活躍し、伝説となったカラーリングが施されています。

675LT Spider は、サーキット志向や Coupé の性能をより取り入れています。Club Sport Pack- チタニウム製ロールフープと 4 点式シートベルト、消火器を装備 - のオプション設定はしていません。

ロングテールの特性は他の追随を許さないものであり、675LT Spider でもその特性が活かされています。Coupéと同様に 675LT Spider は 500 台が限定生産とされ、最初のデリバリーは 2016 年夏以降を予定しています。

THE STORY OF LT

McLaren F1 の物語は、自動車の歴史上、最も有名なひとつです。圧倒的強さを誇った GTR はレースの歴史を変え、モータースポーツの殿堂入りに相応しい功績を残しました。1995 年と 1996 年のシーズンで大成功を収めた後も、マクラーレンはさらに高いハードルを自らに課して、競争の先頭に立ち続けることを求めました。

1997 年の McLaren F1 GTR ‘ロングテール’ は、ネーミングと基本構造は変更されませんでしたが、原点に立ち戻って開発されたモデルであり、アイコンックな McLaren F1 の究極の仕様となりました。延長されたボディワークによって増大させたダウンフォースと大幅な重量削減により、このモデルは、McLaren F1 のバッジを配した全 106 台の中で、最もサーキットに適したモデルとなりました。

McLaren F1 GTR ‘ロングテール’ は、レース専用開発された ‘プロトタイプカー’ を相手に競った FIA GT 選手権に代表されるように 1997 年のスポーツカー・レース・シーズンにおいて成功を収め、タイトル獲得まであと一歩のところまで迫りました。注目すべきリザルトとしては、シルバーストーン 4 時間レース、ホッケンハイム 4 時間レース、スパ・フランコルシャン 4 時間レースでの優勝と、さらに 1997 年のル・マン 24 時間レースでのクラス 1-2 フィニッシュ(総合 2 位、3 位)などがあります。このル・マン 24 時間レースでは、トップスピードでは遥かに上を行く LMP プロトタイプカーを相手としたレースにも関わらず、シャシーナンバー41 の McLaren F1 GTR ‘ロングテール’ は、圧倒的な勝利を収めたチャンピオンマシンと僅か 1 周差と善戦しました。そして GT1 クラスでは、ライバルとは 30 周近くも引き離し、クラス優勝を収めました。

そして今日、マクラーレンは再び、同じことを成し遂げました。‘LT’ はウルトラ・ハイパフォーマンス・ブランドとなって、マクラーレンの ‘ロングテール’ の伝統を復活させています。このアイコンックなバッジを冠した 675LT Coupé と 675LT Spider は、‘ロングテール’ の精神である徹底した軽量化、エアロダイナミクスの最適化、高められたパワー、サーキット志向のダイナミクス、そしてドライバーとマシンとの一体感を具現化しております。

McLAREN 675LT TECHNICAL STATISTICS

PERFORMANCE

0-100km/h	2.9 秒
0-200km/h	8.1 秒
最高速度	326 km/h
パワー・ウェイト・レシオ	532 PS/tonne

ENGINE & POWERTRAIN

エンジン形態	V 型 8 気筒ツインターボ/3,799cc
最高出力	675 PS (666bph) @ 7,100 rpm
最大トルク	700 Nm (516 lb ft) @ 5,000-6,500 rpm
トランスミッション	7 速デュアルクラッチ式シームレス・シフトギアボックス (SSG)
CO ₂ 排出量	275 g/km

DIMENSIONS & WEIGHT

乾燥重量	1,270 kg
重量配分	42/ 58
車長	4,546 mm
車幅	2,095 mm
車高	1,192 mm

本プレスリリースは参考翻訳です。

原文および画像につきましてはマクラーレンのメディアサイト(英語)からご覧いただけます。

URL: <http://cars.mclaren.press/>

マクラーレン・オートモーティブの日本オフィシャルウェブサイトおよび日本オフィシャルフェイスブックは下記の URL からご覧いただけます。

オフィシャルウェブサイト: <http://jp.cars.mclaren.com/>

オフィシャルフェイスブック: <https://www.facebook.com/mclarenautomotiveJP>

マクラーレン・オートモーティブについて:

マクラーレン・オートモーティブは、ラグジュアリーかつハイパフォーマンスなスポーツカーを製造する英国の自動車メーカーで、サリー州ウォーキングのマクラーレン・テクノロジー・センター(MTC)を拠点としています。

マクラーレン・オートモーティブでは 2010 年の設立後、2011 年に画期的な McLaren 12C の発表を皮切りに、2012 年に 12C Spider、2013 年に限定生産の McLaren P1™を発表しました。毎年新型モデルを導入するという計画を掲げ、2014 年には McLaren 650S Coupe と 650S Spider を発表し、さらに 2015 年のマクラーレン・スポーツシリーズ導入を発表しています。マクラーレン・ブランドは拡大を続けており、オンロードカーの生産 3 年目となる 2013 年度には業績の黒字化を達成、2014 年度もセールスは引き続き好調で世界の主要自動車市場における、独自のグローバル・ディーラー・ネットワークを通じて 1,649 台のマクラーレンを納車しています。

マクラーレン・オートモーティブの技術パートナー:

革新的で高い評価を獲得しているスポーツカー・ラインアップの開発、エンジニアリング、製造においてマクラーレン・オートモーティブは専門的なノウハウと技術を提供する世界トップレベルの企業と提携しています。主なパートナーは、アクゾノーベル、エクソンモービル、ピレリ、SAP などです。

サーキット用に設計しオンロード用に開発:

マクラーレンにおける Formula 1™マシンとロードカーの融合には、経験、知識、原理、プロセスが活用されています。Formula 1™レースでの 50 年にわたる歴史の集大成と、画期的なスポーツカーの製造における 20 年以上の経験を活かして、マクラーレン・オートモーティブでは、技術的に優れた、画期的なハイパフォーマンス・スポーツカーを設計、開発および製造を行っています。オンロードとサーキットを走るマクラーレンのスポーツカーには一切の妥協もなされていません。

マクラーレンは車両製造にいち早くカーボン・ファイバーを採用し、30 年にわたる経験を有しています。1981 年の McLaren MP 4/1 や、1993 年の McLaren F1 といったレーシングカーやロードカーにカーボン・シャシーを導入しており、これまでマクラーレンが製造した車両はすべてカーボン・ファイバー・シャシーが採用されています。

マクラーレン・オートモーティブの日本オフィシャルウェブサイトおよび日本オフィシャルフェイスブックは下記の URL からご覧いただけます。

オフィシャルウェブサイト: <http://jp.cars.mclaren.com/>

オフィシャルフェイスブック: <https://www.facebook.com/mclarenautomotiveJP>